名古屋外国語大学 国際経営学部・現代国際学部 同窓会報

NACION vol.8

2012年3月16日発行

発 行：名古屋外国語大学国際経営学部・
現代国際学部同窓会事務局
〒470-0197愛知県日進市岩崎町竹ノ山57
TEL： 0561-74-1111（大学代表）
HP： www.nacion.jp
SNSサイト： www.nufsplus.net
Email：info@nacion.jp

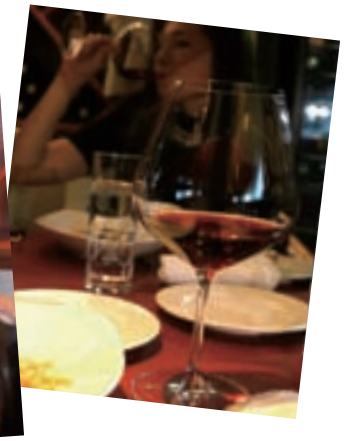
第1回同窓会主催 稲葉寿美先生のワインセミナー

2011年11月27日（日）、元東海テレビアナウンサー稲葉寿美先生をお招きし『ワインセミナー』を開催しました。女性限定、女子力を上げて素敵な女性になるというテーマのもと企画されたこの会は大変盛り上がり、同窓会としても大変満足な一夜となりました。

今年からは、『現在より素敵に』をテーマにセミナーを開催しました。同窓会役員としましても、より多くの会員に参加していただけるよう今後も続けたいと思っております。

ご参加いただきました皆様、どうもありがとうございます。

2012年も引き続きセミナーを開催します。今までご参加いただいた方もまだ参加したことのない方も、同窓会に関心を持っていただくことで母校の発展にもつながります。ご参加を心よりお待ちしています。セミナー・イベントの申し込みは巻末をご覧ください。



第2回同窓会主催 20代30代のための経済力アップセミナー『マネー基礎力を高める7つのポイント』

2012年2月12日（日）、『マネーセミナー』をウインクあいち（名駅 愛知県産業労働 センター）にて開催しました。先が見えない、将来が不安…と言われ続けて15年以上。こんな時代だからこそ、仕事やプライベートに関わらず、身につけておきたいマネー基礎力!

当日は18名の方に朝から参加していただきました。真剣に聴講していただき感謝します。

第3回同窓会主催 心と体がよろこぶ食育セミナー『体の内側からもっと元気に、もっとキレイになる食事の秘訣』

2012年2月12日（日）、『食育セミナー』をウインクあいち（名駅 愛知県産業労働 センター）にて開催しました。いつまでもキレイでいたい人、いつまでも健康でいたい人、大切な家族の健康を守りたい人、そんな方を同窓会は応援したいという気持ちで開催したセミナーでしたが、在学生の参加が圧倒的に多く講演後の質疑応答も学生からの質問がとても多いセミナーとなりました。学生の食生活への関心の高さが感じられました。

先生のあしあと

現代国際学部の教員から同窓生へ、社会人の先輩としてメッセージや教訓を頂戴しています。

「絆」を築くのは真のコミュニケーション

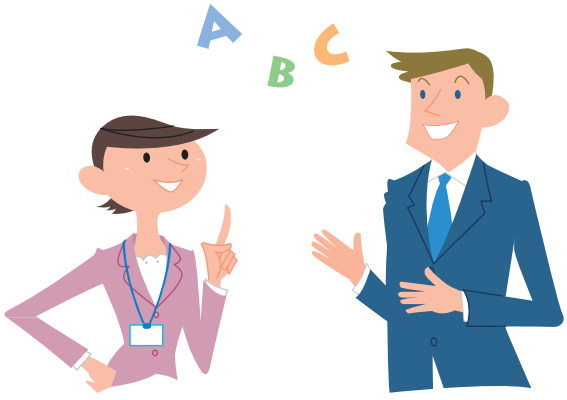
現代英語学科
浅野 輝子 准教授

私が名古屋外国語大学で英語を教えるようになって早18年になろうとしています。振り返ってみますと、その間多くの学生が巣立っていき、様々な方面で活躍されている事と思います。

この度、同窓生の方々に贈る言葉をと問われました時、私の遠く過ぎ去った日々に思いを馳せてみました。

私が英語の道を志したきっかけとなったのは、父親のこの一言ではなかったかと思います。戦地でマラリアを患った父親が病床にて、私に語ってくれた言葉「敗戦間近のフィリピンのジャングルの中で、米兵に出会った時、たまたま英語が話せる戦友と一緒にいたおかげで、米兵とコミュニケーションをとることが出来、命拾いが出来た。これからの世の中、世界平和の為にも英語くらいは話せるようにならないとダメだ。」「意思疎通が出来れば人の命をも救うことが出来るのだ。」という父の言葉が3歳の私の心に刻み込まれたのです。そして中学1年生の時、本格的に英語を勉強しようと思い、母に相談しました。母は、面識のなかったアメリカ文化センターの館長さんの所まで直接押しかけ、事情を話したうえで、英語の家庭教師をして頂ける方を紹介して頂きました。私にとって生涯の恩師となったその方が、当時、「一年間このテキストを暗記したうえで英会話番組を聴き続けたら英語を話せるようになりますよ。」とおっしゃり、その言葉を信じた私は、NHKラジオの英会話番組を再放送を含めて毎日3回一年間聴き続け、テキストをすべて暗記しました。私の英語における基礎力はこの時代に培われたのではないかと思っております。そのお陰で、中学3年生の時には、東海3県英語弁論大会に出場し、イソップ物語の中から“All play and no work makes Betty a dull girl. All work and no play makes Jack a dull boy. ”の言葉を引用して自分の生き方を主張したことで、審査員からも拍手をもらう事が出来、優勝することが出来ました。大学に入学してからは、時事問題にも興味を抱き、ESSのディベートサークルに入り、「国連の安全保障理事会における拒否権は是か否か?」「沖縄返還は是か否か?」など世界で起こっている出来事を英語で討論するというディベートを学び、アファーマティブのコンストラクティブスピーカーとして全国大会にも出場して優勝も出来ました。そして卒業後は、ISS同時通訳養成所で通訳技術を学び、国際会議における同時通訳など貴重な体験をして参りました。共通の言語を持たない人と人との間に立ってコミュニケーションをとるということは、大変難しいことです。単に言語から言語への翻訳だけであってはなりません。話者の背景知識である英語の癖、発音、地域的文化的特徴による用語の使用法、言い回しなど充分な情報を得ることによって話者の発言に対して正しい理解を得ることが出来なければ真のコミュニケーションを取ることは出来ません。今の時代、我々は大きなグローバル化の波にさらされています。世界中の人々とコミュニケーションをとるということが非常に重要になってきております。そしてその中で、自分の考えを主張し、理解させることが出来る能力が求められています。私の通訳の恩師である原不二子先生も、「通訳は21世紀の仕事です。紛争解決は、武力でもなく、資力でもなく、コミュニケーションを図ることによって解決されなければなりません。」とおっしゃっています。

皆さんが、名古屋外国語大学で英語を学び、英語や他言語を使って単に通訳をするということだけではなく、世界中の人々と本当の意味で理解しあえるようになって頂けたらと思います。そして、日本という小さなフィールドだけではなく、世界中でその能力を遺憾なく発揮されることを心より願っております。



学び続けること、伝えていくこと

現代英語学科
室 淳子講師

現代国際学部に就任して早四年になりました。昨春四人のゼミ生を送り出し、この春には一年生の時から一緒に四年間を過ごした多くの学生さんたちが卒業を迎え、随分寂しくなるように感じています。

私が大学の仕事を意識したのは、早くは高校生の時であったように思いますが、そこには研究者への漠とした憧れがあったにすぎず、それが可能であるとも、自分がいつか実際にその立場に身を置くことになるとも、考えていたわけではありませんでした。ただ、学ぶことが好きであったことや、大学時代に女性の先生がいらっしゃらず、何でもない相談をなかなかできずにいたことも、大学の仕事をめざす動機づけになったのかもしれません。大学を出てすぐに教壇に立つというような力も勇気も私にはなく、もう少し学びたいと思ったこと、あるいは、その気持ちを後押ししてくれるように、例え幼い子供たちであっても力のある先生の話を聞きたがるものだという言葉を当時お世話になった方から聞いたことも、学び続ける選択を促す要因になったように思います。それゆえに、自分が何を専攻するか、何をテーマに選ぶかといったことには、必要以上に頭を悩ませられたように思います。

学生であることが許される年齢をすぎて学び続けるのは意外に難しく、高校時代には大好きで得意であったはずの英語も一時は嫌いになり、自ら稼ぐことの大変さや、正職につくことの厳しさも、長い間感じてきました。とはいえ、今ふり返れば、それらの時期がすべて今の自分につながっていること、何より本物の力を持った尊敬のできる先生や先輩、多くの友だちと一緒に過ごせた時間がとても楽しかったことを貴重に思います。あるいはまた、みんなと一緒に読んだ多くの理論家や作家たちの見解が、当たり前のように日常を送る中で私自身がどこかに抱いてきた問題意識を解き明かし、大きな力を与えてくれたのも本当です。

教えたり、研究をしたり、出版をしたりする機会を得ていく中で、自分が懸命に取り組んでいたことや出会った人々とのつながりが、その時よりもむしろ、七、八年経った頃に戻ってくるというような経験がいくつかありました。それらは、自分がその場にいる時には決して知ることのできなかったことですが、その時の私自身に対する励みになると同時に、そのようなことがこれからもあるかもしれないという思いは、今この一瞬への大きな糧になるように思います。

私が今の研究を始めたきっかけは一冊の本でした。ルイーズ・アードリックの『ラブ・メディシン』という小説ですが、これまで馴染みのなかったアメリカ先住民のチペワ出身の女性作家による作品であることに魅かれ、自らの立場で作品を書き、声を発していく彼女の姿勢に勇気づけられたのが始まりでした。アメリカ文学研究のなかでも、先住民文学を手掛ける研究者は少なく、面白そうだからやってみなさいと、指導教官に後押しして頂きました。それ以降続けている研究ですが、アメリカの人口の1%にすぎない人々の中に生きる文化の力強さと美しさには学び続けることがたくさんあるように思います。アメリカ先住民のもつ文化の特質や価値観には日本の人たちに似たところがあるかもしれません。アメリカの博物館を訪れた時、一通りの解説を終えた学芸員がこのような話をしていました。先住民の子どもたちを案内して質問があるかと尋ねても、誰も何も言わないと。ところが、こちらから尋ねれば、学芸員の知識を超えるほどに、たくさんのことを知っていて、聞くことを重んじる文化であることに感じ入るところがあると。クリスマスも祝う神仏混淆の日本にも似て、先住民の居留地には、教会とキヴァが並列し、土着の文化と新しく入った文化が混在するのも目にします。お祭りの日の仮設の観覧車に、とうもろこしを頭に乗せたトリックスターが子どもと一緒に乗っているのも面白い光景でした。昨春訪れたプエブロの居留地では、お祭りにたくさんのごちそうを用意し、訪れるすべての人にしっかり食べなさいとの言葉がかけられました。親戚中を訪ねないといけないから、一ヶ所でたくさん食べちゃだめだよと、訪ねなかったら後で怒られちゃうからと、私を連れてくださったご家族が話されていたのも印象的でした。日本の祖母たちのように、温かく、優しく、親戚付き合いに少しうるさくて。どちらを擁護するわけでもありませんが、私たちが西洋との比較で日本を捉えようとしがちであるのは、時に安易に過ぎるかもしれないと思うこともあります。

今のお仕事の機会を頂いた時、躊躇する私に、後輩たちの目標になるようにと先生に言われました。女性だからと思う気持ちはよく分かるけれど、僕らとしては同じ土俵に立って欲しいと思っているんだと。昨春震災が起きた時にアメリカにいた私は、ちょっとしたアンバセダーの役目を担いました。人に出会ったり、教えたり、書いたりしていくことで、私自身がこれまでに学んだり、目にした多くのことを、恩返しの気持ちもこめて伝えていくことができたら、というのが今の私の気持ちです。学生さんたちが私の研究室を気軽に訪れていろいろな話を聞かせてくれることを嬉しく思いながら。また、卒業してもそんな日々をどこかで思い出してくれることを願いながら。

同窓生は今

「働くこと」が私に教えてくれたこと

岩出 朋子

変えられるのは「未来と自分」だけ、行動しないと何もはじまらない

大学卒業後、転職を繰りかえし、現在は5社目であるリクルートHRマーケティングで働いております。今年の1月には9年目を迎え「働く」という自分の役割がようやくこの歳になりわかってきたと思います。

「自分に合う仕事は何だろう」と転職を繰り返した20代、どんなことが起ころうと変えられるのは「未来と自分」であり、「過去と他人」を理由にいい訳にして生活をしていては駄目だと実感できるきっかけをくれたのは今の職場でした。

そして大切なことは「行動しないと何も変えられない」ということ。

5社目となることこの会社では日々、学びの機会があり私にとってとても楽しい職場です。

ただ今、在校生の瀧川 茉希さんが弊社にてインターンをしています。来春から4年生となる彼女は就職活動の真っ盛り。陰ながらですが応援しています。「働く」ということは少なくとも1日のうち1/3を占めるわけですから、自分の納得いく就職活動をして成長とともに職場を変えるのであれば素敵な選択肢であると思います。インターンを通じて「働く」ことのイメージを彼女が掴むきっかけ作りができれば嬉しく思います。

30代に入り新しいことにチャレンジしています

働きながらMBAを学ぶ

昨年4月からグロービス経営大学院に入学し、MBAを学んでいます。大学時代、熊田ゼミにてマーケティングを学んだことがきっかけになり、その後、ワシントン大学のビジネスプログラムでもマーケティング専攻し、大学院への入学を意思決定しました。将来の起業を目指し、それまでに必要な知識とスキル、人的ネットワークを大学院にて身に着け、成熟できるよう毎日を大切に学んでいこうと思います。

女子会「Third Place」設立

「誰でもいくつになっても褒められたい」って思っているのでは…と思ったのは3年前の営業から企画への異動がきっかけでした。営業は売上達成をすれば、周りから褒められ、評価を受けやすいのですが、企画は納期を守り、正確に納品しても褒められることはあまりなかったんです。毎日、不満がたまる一方、世の中の女性の仕事を考えたとき、実は女性の仕事はこのパターンが多いのではと思い、そんなニーズがあるなら「褒められる会」を創ろうと思いました。2010年12月に女子会「Third Place」を開催し、昨秋には20名の異業種が集まる女子会になってきました。今後も定期的に会を開き、みんなが褒められる、第3の場所、Third Placeを提供し、その場所を通じて「毎日が楽しくなる」そんな機会を皆様に提供できるように今後も会を続けていきたいです。

ワイシントン大学留学時の友人と10年ぶりの再会 in Dubai

新卒で入社した会社を早々、2年で退職しワシントン大学のEIBPプログラムに参加して今年で10年を迎えました。その後、連絡を取り合うことが少なくなり、連絡先も失っていた始末。昨年5月から始めたFacebookを通じて昨年12月にプチ同窓会がドバイで開催されました。10年ぶりにみんなと再会することができ、この素晴らしい文明の進化に感謝しております。オーストラリア、ドバイ、カナダ、アメリカ、日本と住んでいる場所が違っても簡単にリアルタイムにコミュニケーションができるのはすばらしいと思います。新しいことにチャレンジして少し行動するだけで世界は広くなると改めて実感しています。

国際ビジネス学科

権先生は、1986年に中西学園の愛知女子短期大学教授に就任され、ほぼ先生の半生の間、本学園で研究·教育に携わってこられました。本年の4月からは、客員教授として、特に中国北京外国語大学、韓国又松(ウソン)大学、そして本学名古屋外国語大学の3大学の共同ビジネス教育プログラムにご尽力をいただきます。そこで、この間の様々なことについて、先生にお聞きしました。なお、用語を含め、文章にかかわる全責任はインタビュアである水野積成が負うことを、お断りいたします。興味深いものとして、お読みいただければ、私としても大きな喜びです。

国際ビジネス学科長のお仕事について、伺いたいと思います。

稲福学科長のあと、2年間学科長を務めました。学科長になった時、現代国際学部の改組の話が持ち上がり、それに関する作業は大きな仕事でした。国際ビジネス学科については、学科名称やカリキュラムの骨格は、これまでのものを継承します。ただし、学科発足後8年経過していますので、これまでの成果と反省を踏まえ、授業科目の新設も行います。他の大学などでは、少子化の影響から受験者を減らしていますが、国際ビジネス学科では確実に応募者があり、堅実な評価をいただいています。これも卒業生の皆さんの活躍の結果です。そのこともあって、今回の改組で、学科の定員を80名から100名に増員します。

韓国から日本にこられてからのことをお伺いしたいと思います。

1963年に韓国の高麗大学経営学科を卒業しました。在学中に、日本の公認会計士に相当する韓国の計理士試験に合格しました。高麗大学大学院を修了し、1965年より同大学講師になりました。韓国では外国で博士の学位を取得することが、大学で教授になって研究を続けるための条件と考えられていたので、1967年明治大学大学院博士課程に入学して経営学の学位取得を目指しました。当時の日本では、大学院教育が十分整備されておらず、特に文系の分野では博士号の取得は大変困難でした。在学中に、入院、休学する、そして休学に伴って起こった留学ビザの再取得の問題もあり、工業経営分野となる早稲田大学大学院博士課程の「オペレーションリサーチ専修」に再入学をしました。その後、1989年南山大学の論文博士として最初となる経営学博士号を授与されました。

早稲田大学大学院を修了後、愛知工業大学でしばらくの間専任教員を続けていましたが、前理事長の中西憲一郎先生からのお話で、愛知女子短期大学経営専攻主任教授に就任しました。私の就任前には、熊田喜三男先生が教授として在籍しておられ、また、私とほぼ時期を同じくして辻節雄先生が就任され、引き続いて、現理事長の中西克彦先生も就任されました。その後の国際経営学部の創設を支える方々が、集まりつつありました。平井国際経営学部長をはじめ、アメリカから加藤先生、日本の様々な大学から竹内先生、国津先生、稲福先生などをお迎えして1994年に国際経営学部の発足

にこぎつけることができました。学部創設については、今以上に文部省(当時)の認可が厳しかったのですが、新たに多くの先生方をお迎えできたこともあり、全国的にもユニークな外国語大学の中の経営系学部として、発足することができました。英語教育においても斬新で様々な工夫があり、また、経営学と英語との連携などユニークな特色を持った学部として発足できました。その後2004年には、教育の目的をより明確にするために、現代国際学部に現代英語学科と国際ビジネス学科の2つの学科ができました。

グローバル化の時代において、国際ビジネス学科の教育はどのような方向に向かうべきだとお考えですか。

外大の国際ビジネス学科の特徴を生かして、語学の英語と専門のビジネス教育をバランスよく学ぶことによって、グローバルなビジネス社会に適応できるビジネスマインドを持った学生を育てることであると思います。

2011年12月9日(金曜日)に、李均東名古屋総領事をお迎えして、国際ビジネス学科主催の学科講演会を行いました。題名は「世界化時代の挑戦とGlobal人材の育成」ですが、大変内容の充実した素晴らしい講演でした。この講演内容を紹介いただければ、私が日ごろ考えていることも理解していただけると思います。当日の李先生の講演をご紹介します。

(李先生のご講演の抜粋)

最初に、キング牧師のことばとして、「(教育において重要なことは)知性に個性をプラスことが重要」という言葉を引用して、全く同じ考え方や知識を獲得するだけでは意味がないこと、受け身であってはならないことを強調したいと思います。学ぶにあたっては、単に話を聞くだけでなく、involveしなければならない。つまり、熱中するという姿勢が重要です。

グローブル化の進む中での教育では、ペンシルバニア大学のハンツマンプログラムのような2つの異なった分野の学位を取得する総合的な勉強が重要になってきます。(この教育プログラムは世界最大の化学会社を築き上げたJohn.M.Huntsmanに由来します。Huntsmanは「Winners never cheat.(邦訳名「賢い馬鹿正直になりなさい」)」の著者としても有名。)つまり、様々な角度から問題を見て、総合的にものを考えられることが、Global人材に必要なことです。

「(韓国の)盛んな海外留学が教育の世界化を促進」したというエピソードを紹介します。韓国では一時今よりはるかに海外留学熱が盛んでした。海外留学した若者は、発展途上国も含め世界中の95か国に就職しました。特に、現在の発展途上国の経済力が、今後世界を動かすことを考えると、今では、この若者たちが韓国の大きな力になっています。

(私たち名古屋外国語大学に対しても、貴重なメッセージをいただきました。)1988年に中部地区唯一の外国語大学として発足した名古屋外国語大学は、英語を勉強する大学とともに、日本・韓国・中国の3つを結ぶ東アジアのHub Universityとなってほしいと思います。(これは、現在、本学が進めている韓国・中

国の3大学と共同で進める教育プログラム構想とも一致するところがあります。）

最後に、「道を作る人のところのみ道ができる」（Walker, there is no road. The road is made by walking.）ということばを皆さんにお贈りしたいと思います。

■インタビュアから一言。

権先生は、日本にいらした20歳代からほぼ50年の間、教育・研究の分野で、日本で活躍してこられました。名古屋外国語大学現代国際学部は、国際経営学部時代を含めると、20年近く経ちましたが、先生はこの間精力的な働きをされてきました。何より、「教育と勉強することが好き」であるということが、先生の原動力であることは間違いがないと感じました。

現代英語学科

フレッシュマン・キャンプ

●4月4日（学内にて）　●9月12日（ヒルトン名古屋にて）

本学科では、現代の先端的分野「ジャーナリズム・メディア」「観光・ホスピタリティ」「国際交流・ボランティア」「通訳・翻訳」「英語教育」において英語力を発揮しながら活躍できる人材育成を目指しています。このフレッシュマン・キャンプでは大学生活はもちろんのこと、その後の授業に早期に融合できることを目的としています。今年度は、日程を春・秋2回に分けて行いました。4月4日に学内で行われた春期キャンプでは、上級生らによる各教員の紹介が行われ、各教員の担当科目や専門分野についての説明を興味深く聞き入っていました。また、クラスアドバイザーや上級生との歓談では、大学生活や授業に関して積極的に質問をする姿が印象的でした。9月12日に行われた秋期キャンプは、午前は名古屋出身のメンタルトレーナー・久瑠あさ美さんによる講演及びワークショップを行いました。午前のプログラムは『一流の勝負力～一人一人の可能性を引き出すメンタルトレーニング』というテーマで行われ、卒業後に必要となるリーダーシップを育てるために自身の性格をどう生かすべきか、学生たちがヒントを得るきっかけとなりました。午後のプログラムでは、船上で上級生による堀川周辺ガイドを聞き、名古屋の歴史に対する理解を深めました。

9月12日 久瑠あさ美さんの講演の様子（上）

9月12日 学生リーダー主導のワークショップの様子

屋形船の乗船風景（左）

教養文化セミナーI（オペラ鑑賞）

●7月17日

全員がオペラ鑑賞にふさわしいようドレスアップしてきました。オペラを鑑賞する前、教員と共に。（びわ湖ホール）

オペラ鑑賞の前のびわ湖ホテルでの昼食。

1年次から3年次まで年1回、教養文化セミナーと題して行われる一連行事の最初に位置づけられている学科イベント。よく知ってはいても実際には接触する機会がほとんどない伝統文化に直接触れる目的で、オペラ鑑賞が1年生の1期に行われています。今年は、びわ湖ホール声楽アンサンブルによる『ウィンザーの陽気な女房たち』を鑑賞しました。会場は滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールでした。これがきっかけで多くの学生が本物に触れる素晴らしさを知り、今後の人生の糧としてくれることを期待します。

創立15周年記念講演会&パーティーの開催

2012年に我々の同窓会は創立15周年を迎えます。年月が経つのは本当に早いものですね。こうして15周年を迎えることが出来るのも、いつも応援していただく会員の皆さまのおかげです。そこで、これまでの感謝を込めまして記念講演会とパーティーを開催させていただきます。皆さま、お誘い合わせてご参加いただきますようお願いいたします。

講演テーマ 『夢を追いかけて』 ～シンクロナイズドスイミング銀メダリストに学ぶ目標達成に対する行動の明確化と思考法～

2012年7月14日(土) 参加費無料

電気文化会館 イベントホール
名古屋市中区栄2-2-5　TEL 052-204-1133

10:00～受付
10:30～講演会
12:15～懇親パーティー

講演者 武田 美保さん

シンクロスイマー／ピラティスインストラクター
2001年世界水泳福岡大会でチームデュエットで堂々の金メダルを獲得し、アトランタ、シドニー、アテネの3つのオリンピックで、銀・銅合わせて5つのメダルを獲得する。
引退後は、テレビ・CM出演、講演、イベント、シンクロを用いたショーなど、様々なジャンルで活躍。
また、アメリカでピラティスインストラクターの公認資格も取得し、新たなジャンルにも挑戦している。

参加登録方法 セミナー&イベント用ホームページの「講演会&懇親パーティー」よりご登録ください。
http://www.nacion.jp/seminar/event-index.html

お申込み締切 2012年6月30日(土)

同窓会主催セミナー&イベント用ホームページ公開

同窓会主催のセミナーやイベントをまとめて確認していただけるよう、以下のホームページを作成しました。
開催費用の一部を同窓会が補助しているため、どれも少ない負担でご参加いただけます。
興味のあるものがございましたら、大いにご活用ください。

同窓会ホームページ
http://www.nacion.jpのseminar & event
からもリンクしています。

http://www.nacion.jp/seminar/event-index.html

NACIONスカラーシップ

NACIONスカラーシップとは、在校生への支援を目的とした奨学金制度です。何かを学ぼうとしている学生で金銭的な支援者を必要としている学生を募集し、その内容によって奨学金を一人あたり上限20万円まで支給します。

2009年度の募集には2名の学生より応募していただきましたが、役員会にて書類審査と面接を行った結果、今回は残念ながら採用を見合わせることとなりました。

同窓会は今後も、何かを学びたくても金銭的な理由でそれを断念しているような学生を支援していきたいと考えます。皆様から頂戴した寄付金の一部もこの奨学金として活用させていただきますので、もっと多くの学生を支援できるよう、益々のご協力をよろしくお願い申し上げます。

奨学金授与者として

現代英語学科　3年生　07031054　**重井 アマンダ**

このたびは、奨学生として採用していただき、誠にありがとうございました。私がこの奨学金に応募させていただいたのは、私が所属する浜松のボランティアグループ「Arteiros」と共に作成しようとしているビデオを作るためです。そのグループは、浜松に住むブラジルの若者が、自分たちはブラジル人だが、日本で育ち、日本の社会で暮らしていて、これからもずっとここで暮らすかもしれない、ならば日本の社会に自分たちの考えを届けたい、自分たちと同じく母国でない国で育つ、暮らすという道を通っている後輩たちの手助けがしたい、今日本に住む外国人の助けになりたいという想いから結成されたものです。そして、その中の一つの活動して、ブラジルで生まれ、日本で育った人達の今の生活を語るビデオを作成しよとしています。

日本に住む外国人は大変多くの悩みを抱えています。それは差別や、言葉の壁。価値観の違いなどです。そして、海外で生まれ、日本で育ったという人たちは、このような悩みも持ちますが、海外から出稼ぎに来た外国人とはまた違う悩みを抱えます。それは、アイデンティティで悩んだりダブルリミテッドの問題であったりします。そのなかで、多くの子供たちが小さい頃に日本へきて、工場で働く両親をみて、日本の学校へ通っても勉強についていけなかったり、親の助けになろうとしたりと、早い段階から自分も工場で働き始めます。もちろん工員というのはすばらしい職業で、日本の社会を支えている重要な役割を果たしています。しかし、多くの青年が両親や日本にいる親戚、皆が工場で働くものだと思ってしまうことがあるのです。なかには自分には工員になるという道しかないと思ってしまう子供すら存在します。それはとてももったいないこと思うのです。もっと彼らに自分が将来何になりたいのか、どんなことをしたいのか、そしてそれは可能だという想いを持ってほしいのです。私はもっと夢を持って欲しいと願いっています。そしてこのビデオがそのきっかけになると思います。同じ背景を持って、そして同じような道を歩んだ先輩たちが、工員だけでなく、旅行会社で働いたり、プロのスケーターになったり、教員になったりと、色々な道に進んでいることをみてほしいのです。

私たちが作るビデオが子供たちにもっと夢を与えるきっかけになれば嬉しいと思っています。

国際ビジネス学科　1年生　11032078　**中村 沙織**

私の奨学金の使い道は、所属している居合動部で必要な刀と胴着を購入するために使います。今使っているのは大学からの借り物です。来年入ってくる後輩のため借りている道具をずっと使うわけにはいかず、購入する必要があるので奨学金に応募しました。合格通知をいただいた時はとてもうれしかったです。面接も良い経験になりました。奨学金は大切に使わせていただきます。これからも先輩方、先生のご指導の下、日々稽古に励んでいきたいと思います。

オーストラリア・ホームステイ

現代英語学科3年(2011年)　**萩原 理仁**

私は奨学金を1週間のオーストラリア短期ホームステイに使いました。1週間というとても短い期間でしたが、そこで得られたものは大きなものでした。ここでは、その時の事を報告します。

○動機

私が海外に行くのはこれが2回目でした。初めて海外に出たのは大学2年の春休みで、友達と一緒に西アジア・中東のアラブ首長国連邦に旅行に行きました。現地ではガイドさんを要請しなかったので、ホテルのチェックイン等は全て自分達でやらなければなりませんでした。旅行以前は自分の英語に対してある程度の自信があったもののホテルの受付で悪戦苦闘しました。自分の英語スキルはこんなものかと現実をまざまざと突き付けられました。帰国後いままで以上に英語に対する取り組みを改善し、授業もいままで以上に真剣に取り組みました。しかし、それでもスピーキング、リスニングのスキルはなかなか向上しませんでした。どうすれば、これらのスキルを効率よく上げることができるのか。私が行きついた答えは、妥協することのできない環境で生活することでした。妥協することのできないとは、つまり日本人のいない場所で英語で生活することです。この考えを思いついてから、すぐにホームステイ先を探し、資金となる奨学金を得て出国しました。

○現地活動

ホームステイ先はブライアン夫妻の家でした。妻のアナと夫のロバートは2人とも70歳を超えていましたが元気いっぱいでした。ホームステイ中はアナがテキストを用いて英語の基礎を教えてくれました。アナは元小学校の英語教師で教えるのが非常に上手でした。レッスン中はもちろん英語で行われるので、テキストの内容を理解する以前にアナが言っている事を理解しなければならなかったので、たった2時間のレッスンで頭がパンクしそうになりました。しかし、この苦しい環境こそが自分を成長させると信じて頑張りました。

ホームステイは順調に進んでいましたが、2日目にアクシデントが発生しました。アナが体調不良で緊急入院したのです。幸いしばらくの入院で回復する程度だったので良かったのですが、アナが入院してしまったら私の勉強はどうなるのだろうという新たな問題も発生しました。どうなったかというと、毎日病院に通って病院で勉強するというなんとも貴重な体験ができるようになったのです。毎日通っていたため、アナと同じ病室の患者さんとも仲良くなり、勉強終わりにカプチーノを奢ってもらって世間話をしました。この時私はふと自分がもちろん完璧ではないものの、以前よりも自然な感覚で英語を使えていた事に気がついたのです。日本でいる時よりも断然英語に接する時間が増えたため、ほんの少し耳が英語に慣れたのだと思います。

アナが入院して以来、ロバートは毎日朝から夕方までアナの病院に行っていました。私はというと、病院で勉強する以外は家で留守番でした。家でテレビを見るか、近くのスーパーまで買いものに行くぐらいしかすることがありませんでした。今回のホームステイの目的であった、同年代のオーストラリア大学生への就職に関するインタビューは、ブライアン夫妻のお孫さんに行おうと思っていたのですが、アナが入院したため娘さん夫婦の家にお邪魔することができず聞くことができませんでした。しかし、これでは報告にならないので帰国後NUFSの留学生にインタビューしました。彼らは自分達の将来についてほとんどが何らかの目標を明確にしていました。日英の通訳者に成りたい人、もっと日本語を勉強して日本で働きたい人など。私と彼らの違いは目標の明確化にあったのです。私はまだ自分の将来について具体的なビジョンが描けていません。なので、すぐにとは言えませんが自分の目標を早く設定しそれに向かって努力し続けたいです。

最後に、奨学金を頂けたことにより私はこれまでよりも成長することができました。本当にありがとうございました。今後も私のような学生に対し奨学金を通じて支援して頂ければと思います。

会　計　報　告

■ 2010年度決算

（単位：円）

	項　目	予算額	決算額	増　減	内　訳
収入	前年度繰越金	10,056,297	10,056,297	0	三菱東京 UFJ 銀行
	会費収入	2,300,000	2,160,000	△ 140,000	2010 年度卒業生（@10,000×216 名）
	寄付金	0	0	0	
	セミナー参加費	0	0	0	
	預金利息	3,000	2,380	△ 620	三菱東京 UFJ 銀行
	合　計	12,359,297	12,218,677	△ 140,620	

	項　目	予算額	決算額	増　減	内　訳	
支出	卒業行事等援助費	250,000	210,262	△ 39,738	同窓会のしおり	64,312
					卒業記念品	145,950
	総会費	700,000	449,298	△ 250,702	総会案内作成・送付費	248,203
					懇親パーティ代	180,875
					その他	780
					懇親登山イベント費	19,440
	広報費	500,000	539,947	39,947	会報作成・送付費	524,407
					執筆者謝礼（JCB ギフトカード）	15,540
	事務費	490,000	348,529	△ 141,471	会議費	65,211
					人件費	275,533
					事務用品費	5,160
					銀行振込手数料	2,625
	奨学金	200,000	100,000	△ 100,000	在校生向け奨学金（NACION スカラーシップ）	100,000
	会員データ・ホームページ等管理費	150,000	67,870	△ 82,130	ホームページ維持管理、会員データ管理等費用	67,870
	キャリアアップ支援費	250,000	27,936	△ 222,064	就職サポーター関連費	27,936
	予備費	100,000	0	△ 100,000		
	合　計	2,640,000	1,743,842	△ 896,158		

次年度繰越金　10,474,835円（収入金12,218,677円 − 支出金1,743,842円）

■ 2011年度予算

（単位：円）

	項　目	金　額	摘　要
収入	前年度繰越金	10,474,835	三菱東京UFJ銀行
	会費収入	2,300,000	2010 年度卒業生 230 名分（見込み）
	受取利息	3,000	三菱東京UFJ銀行（見込み）
	合　計	12,777,835	

	項　目	金　額	摘　要
支出	卒業行事援助費	250,000	同窓会のしおり、記念品、卒業パーティー援助など
	総会費	500,000	総会運営（資料作成など）、イベント費
	広報費	550,000	同窓会報制作費［8 号］・送付代
	奨学金	200,000	在校生向け奨学金「NACION スカラーシップ」
	会員データ・ホームページ等管理費	150,000	NACION ホームページ ドメイン・サーバーレンタル料、会員データ管理費
	キャリアアップ支援費	250,000	名刺交換会、キャリアサポーター、予備費
	事務費	300,000	通信費、交通費、会議費、人件費、雑費
	予備費	100,000	
	寄付金	1,000,000	学園長銅像作成援助費
	支出合計	3,300,000	

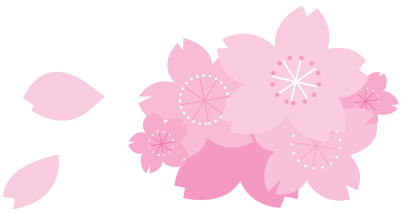
次年度繰越予定金額　9,477,835円（12,757,835円 − 3,300,000円）

同窓会へ寄付をお願いします。

同窓会事務局では、在校生への奨学金の増額や同窓生のキャリア支援事業を活性化すべく様々な案を検討しておりますが、経費の問題で実現できずにいる企画が多々あります。今後は同窓生及び在校生への支援を拡大していきたいと考えますので、ご賛同いただける会員および関係の皆さまからご寄付を賜りたくお願い申し上げます。尚、ご協力いただきました方々は会報誌にお名前と回生を掲載させていただきますのでご了承下さい。

振込方法 千円を一口として下記の銀行口座までお振込み下さい。
尚、ご本人確認のため、振込者名に学籍番号と氏名をご入力いただくか、お振込みいただいた旨を同窓会事務局までご連絡ください。

振 込 先 三菱東京 UFJ 銀行　栄町支店　普通 1360405
口座名義：名古屋外国語大学国際経営学部同窓会



会報及びHPへの掲載募集

メッセージやイベント情報など、同窓会員へ伝えたい事を無料で掲載しますので、お気軽にご連絡下さい。

注意 / 個人・団体への誹謗中傷や宗教その他の勧誘目的など、法律に違反する内容や同窓会報に相応しくないと判断する内容は掲載をお断りする場合がありますので、ご了承ください。

広告協賛企業募集

会報やホームページへの広告を募集します。会員ご自身のご商売、お勤めの会社のPR にご利用いただけます。

有料広告となっており、広告費は在校生への奨学金、同窓生のキャリアアップ支援費として活用いたします。

広告方法、利用スペースによって金額が異なりますので、一度同窓会事務局へお問い合わせ下さい。

会員情報変更届

確実に案内等が届くよう、住所などの変更は速やかにご連絡下さい。

変更は NUFS+ の「卒業後の住所変更」よりご連絡下さい。郵送・FAX・Email でも受付けます

【 NUFS+ 】
http：//www.nufsplus.net

同窓会へのご連絡はこちら

〒 470-0197 愛知県日進市岩崎町竹ノ山 57
名古屋外国語大学
国際経営学部・現代国際学部同窓会事務局
TEL：0561-74-1111　FAX：0561-75-1723
Email：info@nacion.jp

役　員

畑　　恵（会長・2 期）　登立洋平（副会長・10 期）　浅井恭子（副会長・1 期）　石井恵美子（事務局長 / 会計・1 期）
岩出朋子（会計・2 期）　中村憲広（書記 / 会計監査・2 期）　瀧　浩史（書記 / 会計監査・1 期）

幹　事

飯吉美絵（1）　太田友和（1）　加藤優一（1）　神谷理恵（1）　代田喜之（1）　鈴木千賀（1）　鈴木裕介（1）　武原啓子（1）
中川大輔（1）　中野桃子（1）　服部貴子（1）　松原一仁（1）　山口千恵（1）　山崎　豊（1）　浅野享洋（2）　伊藤真彦（2）
大井健一（2）　岡崎由美（2）　原万里子（2）　平林順子（2）　森川浩希（2）　八木正人（2）　荒川誠治（3）　伊藤　望（3）
鳥居佳夫（3）　平井由香（3）　犬飼尚樹（4）　田中文彦（4）　藤田達也（4）　後藤直樹（5）　潮田裕稔（5）　吉田和代（5）
伊藤太一（6）　内門はるか（6）　大石彰則（6）　城月雅大（6）　井上高志（7）　祖父江匡記（7）　竹内千晶（7）　田中潤一（7）
徳山正康（7）　楊　　佳（7）　伊藤浩明（8）　藤田浩史（8）　水野裕也（8）　新宮好洋（9）　石井和弥（10）　岡本　愛（10）
坪井祐一（10）　豊田　匡（現 1）　松井麻美（現 1）　半田涼子（現 2）　山崎　晃（現 2）　菅田雅人（現 3）　久保英利香（現 3）
久保諒介（現4）　新田卓爾（現 4）

沿　革

2012 年　3月　異業種交流会
2012 年　2月　第 3 回同窓会主催「食育セミナー」開催
2012 年　2月　第 2 回同窓会主催「マネーセミナー」開催
2011 年　12月　第 1 回同窓会主催「ワインセミナー」開催
2011 年　7月　第 7 回総会開催
2010 年　10 月　交流イベント「山登り」実施
2010 年　7 月　第 6 回総会及び懇親会開催
2010 年　1 月　同窓会報「NACION paper」第 6 号発行
2009 年　7 月　内規の施行
2009 年　7 月　第 5 回総会及び懇親会開催
2008 年　12 月　同窓会報「NACION paper」第 5 号発行
2008 年　6 月　慶弔等に関する規程の施行
2008 年　5 月　第 4 回総会及び懇親会開催
2008 年　4 月　同窓会名称を「名古屋外国語大学国際経営学部・現代国際学部同窓会」（通称：NACION）へ改称
2008 年　1 月　同窓会報「NACION paper」第 4 号発行
2007 年　7 月　第 3 回総会及び懇親会開催
2007 年　5 月　同窓会報「NACION paper」第 3 号発行
2007 年　3 月　個人情報保護に関する規程の施行
2006 年　12 月　同窓会 SNS サイト「NUFS+」開設
2006 年　11 月　同窓会ホームページ「NACION」開設
2006 年　10 月　同窓会報「NACION paper」第 2 号発行
2006 年　7 月　第 2 回総会及び懇親会開催
2006 年　3 月　国際経営学部同窓会報創刊
2005 年　12 月　第 1 回総会及び懇親会開催
2004 年　10 月　国際経営学部同窓会名簿発刊
2004 年　4 月　現代国際学部（現代英語学科・国際ビジネス学科）開設
1998 年　3 月　第 1 期生卒業、国際経営学部同窓会発足
1994 年　4 月　国際経営学部（国際経営学科）開設
1988 年　4 月　名古屋外国語大学創設

会　則

第１章　総　則
（名　称）
第１条　本会は、名古屋外国語大学国際経営学部・現代国際学部同窓会と称する。
（事務局）
第２条　本会は、名古屋外国語大学内に事務局を置く。
（目　的）
第３条　本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校の発展に寄与することを目的とする。
（事　業）
第４条　本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
(1) 会員の親睦に関する事業
(2) 会員名簿の発行
(3) その他前条の目的を達成するための必要な事業
第２章　会　員
（会　員）
第５条　本会は、本学部の卒業生をもって構成する。
第３章　役　員
（役　員）
第６条　本会には、次の役員を置く。
(1) 会　　長　１名　　(2) 副 会 長　２名
(3) 事務局長　１名　　(4) 会　　計　２名
(5) 会計監査　２名　　(6) 書　　記　２名
第７条　本会に卒業年次毎に若干名の幹事を置く。
第８条　本会に名誉会長を置くことができる。名誉会長には、学長を推戴する。
第９条　本会に顧問を置くことができる。顧問は、役員会において推薦する。
（役員及び幹事の選出）
第 10 条　会長・副会長は総会において選出し、その他の役員は会長が幹事及び会員の中から委嘱する。
2. 幹事となる候補者はゼミで立候補若しくは推薦により選出し、会長に届け出るものとする。
（役員及び幹事の任期）
第 11 条　役員の任期は２年とする。ただし再任を妨げない。
2. 欠員によって補充された役員の任期は、前任者の残任期間とする。
3. 役員は任期が満了の後でも、後任者が選出されるまで、なお、その職務を行う。
4. 幹事の任期は永続とし、交代したい場合は後任者を選出し、その旨を役員会に届け出ることとする。
（役員及び幹事の職務）
第 12 条　役員及び幹事の職務は次のとおりとする。
(1) 会長は、本会を代表し会務を総括する。
(2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
(3) 事務局長は、本会の総括事務にあたる。
(4) 会計は、会計事務を担当する。
(5) 会計監査は、会計を監査し、監査報告書に意見を付し会長に提出する。
(6) 書記は、本会の庶務事項を処理し書類を保管する。
(7) 幹事は、諸業務を分掌する。
第４章　会　議
（役員会）
第 13 条　役員会は、会長がこれを招集する。
2. 役員会の議長は、会長が行う。
3. 役員会は、役員の過半数をもって成立し、議事は出席役員の過半数をもって決する。
（総　会）
第 14 条　総会は、定期総会と臨時総会とする。
2. 定期総会は、年１回開催する。臨時総会は、必要と認めたとき開催する。
3. 定期総会・臨時総会は、会長が招集する。
4. 総会には、議長を置く。議長は総会で選出する。
（総会の審議事項）
第 15 条　次の事項は総会の議決を経なければならない。
(1) 会長・副会長の選任または、解任
(2) 本会の事業計画及び収支報告
(3) 本会の事業計画及び収支決算
(4) 会則の変更に関する事項
(5) その他の本会の業務に関する重要事項
第 16 条　総会は会員の過半数の出席で成立する。議事は、出席者の過半数で決定し、賛否同数のときは議長が裁定する。欠席の場合は、委任状をもってこれに代えるものとする。
第５章　会　計
（経　費）
第 17 条　本会の経費は、会費・寄付金をもってこれに充てる。会費は、卒業時に終身会費１万円を納付する。
第 18 条　会計年度は４月１日から翌年３月 31 日までとする。
第 19 条　受け入れた金品は確実な銀行若しくは郵便局に預け入れ保管する。
第 20 条　すでに納入した会費は、返還しない。
第６章　事務局及び職員
（事務局及び職員）
第 21 条　本会の事務を処理するため、事務局に職員を置くことができる。
2. 職員は、役員会の同意を経て会長がこれを任免する。
第７章　支　部
第 22 条　本会は必要と認めた地域に支部を設置することができる。
2. 支部に関する細則は、別に定める。
第８章　会則の改正
第 23 条　本会会則の変更は、役員会の議を経て総会の承認を要する。
第９章　補　則
第 24 条　本会則の施行について必要事項の細則は、役員会の議を経て会長が定める。
第 25 条　会員で住所等の変更又は氏名を改めた場合は、本会に連絡するものとする。
第 26 条　個人情報の保護に関する規程は別に定める。
第 27 条　慶弔等に関する規程は別に定める。
附　則　1　この会則は、平成 10 年３月 22 日から施行する。
附　則　2　この改正は、平成 17 年 12 月 10 日から施行する。
（第６条及び第 12 条関係）
附　則　3　この改正は、平成 19 年３月１日から施行する。（第 26 条関係）
附　則　4　この改正は、平成 20 年４月１日から施行する。
（第１条関係、名称変更について）
附　則　5　この改正は、平成 20 年６月１日から施行する。（第 27 条関係）

個人情報の保護に関する規程

第１条　この規程は、名古屋外国語大学国際経営学部・現代国際学部同窓会会則第 26 条に基づき、個人情報保護について定める。
第２条　名古屋外国語大学国際経営学部･現代国際学部同窓会（以下､「当会」という。）は会の目的を遂行するにあたり、「個人情報の保護に関する法律」（個人情報保護法）に基づいて個人情報を適正に取り扱うため、下記のとおり方針を定める。
第３条　当会では、会員に関する情報を以下の目的のために利用する。
1. 会員相互の親睦活動
2. 大学との連携による事業活動
3. 在学生の支援活動
4. 印刷物の発行・発送
5. インターネットを利用した情報の発信
6. その他、同窓会活動に関連する業務
第４条　当会では、「1. 個人情報の収集・利用の目的」を達成するため、次の情報を収集する。
1. 氏名・現住所・現住所の電話番号・メールアドレス
2. 勤務先
3. 生死に関する情報
4. その他、当会の活動のために必要と判断する情報
第５条　当会は、次の場合を除き、個人情報を第三者に提供しない。
1. 会員の同意がある場合
2. 名古屋外国語大学の依頼に基づく場合
3. 各種法令に基づく場合
第６条　同窓会事務局は、会員に関する情報を常に正確で最新のものに保つよう努めるとともに、当会外への漏洩、滅失または棄損が発生しないよう万全を尽くすこととする。また、業務遂行上の必要性から外部業者に業務委託等を行う場合は、委託先等に機密保持義務を課すなどその管理･監督に努め、個人情報の流出･不正使用・改ざん等を防止する。
第７条　この規程の改正及びこの規程に関する細則は、役員会の儀を経て会長が定めることとする。

慶弔等に関する規程

第１条　この規程は、名古屋外国語大学国際経営学部・現代国際学部同窓会会則第 27 条に基づき、会員及び教授（退任者含む）の慶弔等について定めるものとする。
第２条　会員及び教授（退任者含む）に対する慶弔金については次のとおり定める。これは同窓会本部へ通達のあった場合に支給することとし、通達する者の故人との関係は特に問わない。
1. 会員または教授（退任者含む）の死亡（告別式等より前の通達）　香典１万円、他に弔電
2. 会員または教授（退任者含む）の死亡（告別式等から３ヶ月以内の通達）　香典１万円
3. 会員または教授（退任者含む）の死亡（告別式等から３ヶ月以上経過した後の通達）　支給不可
ただし、同窓会及び母校の発展に寄与した会員及び教授（退任者含む）についてはこの限りではない。
第３条　本会の活動及び母校の発展に特に貢献した会員及び教授（退任者含む）には、感謝状と記念品を贈呈する。
第４条　この規程の改正及びこの規程に関する細則は、役員会の儀を経て会長が定めることとする。